

# 東部2地区再編案B意見一覧

# 資料2-14

		学校の規模			学校の配置・通学			小中一貫教育		
		メリット	デメリット	その他	メリット	デメリット	その他	メリット	デメリット	その他
東部2地区	第三小学校	<p>①学校の規模は適正であると考えます。</p> <p>②1学級の児童・生徒数、1学年の学級数、学校全体の学級数等についてはおおむね適正規模の範疇に収まっており問題はないと考える。</p> <p>③少人数クラスができ、きめ細かな対応ができる</p> <p>③クラス替えができるので友達が固定しない</p> <p>⑦減少傾向にある児童数に対し、望ましい定数を保つことが出来る。また、学区の編成により長期的な児童数の推移を見ても、一定年数は望ましい児童数が保てる。施設一体型となる場合は、小中を通してのイベントなどが実施できる。</p>	<p>③男女比が均等にならないとクラス運営が難しいのでは？</p> <p>③体育など、できる授業に限られるのでは？</p> <p>⑤再編案の考え方で、適正規模・学級数の対応は適正と考えますが、今寺4丁目の転入範囲をもう少し広げて、道路を境界で対応し、柔軟に検討しても良いと思われます。当該地域の理解は必要となります。</p> <p>⑦施設一体型となる場合は、児童数に伴い校舎の規模も大きくなるため施設運用に於ける割り振りが困難ではないか？一体型とはいえ別々の施設が必要となった場合は、施設面積及びコスト増が懸念される。</p>		<p>①新しい学校の位置は3小・中と新町小・中は共に隣接しているため、再編しやすく小学生の通学で負担が増す地域もあります。が、やむを得ないものと考えます。</p> <p>②現状でも青梅市立第二小学校では通学時間に30分を超過するケースがあると聞いており無理な設定ではない。公共交通機関はあるが、今後スクールバスの運用も可能になれば通学の負担も減少する。</p> <p>⑤今寺4丁目の新町小学校、新町中学校の学区調整での通学距離は許容範囲と判断します。</p> <p>⑤第三小学校と今井小学校の再編で、今井小学校地区での通学時間は許容範囲と思われますが、バス利用での児童の負担軽減の配慮、検討が必要と思います。</p>	<p>②今井地区と今寺地区に居住する児童、生徒にとって再編後の学校までの距離は各段に遠くなる。今井1丁目から第三小学校まで徒歩約40分、今寺4丁目から新町小学校まで徒歩約20分。親御さんたちに登校距離に対する漠然とした不安が生じる可能性はある。</p> <p>③位置が極端に西になり、東から来る子に負担が大きい</p> <p>③小学校低学年は慣れるまで保護者が付き添う必要がある</p> <p>③自転車登校が増え危ない</p> <p>③バスの本数、交通費負担が心配</p> <p>④自転車等の購入費用の発生</p> <p>④新町の移動については安全対策が必要になる</p> <p>⑤通学時間が延長することにより、該当地域での少人数通学による防犯対策の徹底が課題となります。</p> <p>⑥学区は現状を基本に設定しているものの、再編後の学校規模に応じて学区の調整を行うとしています。</p> <p>そういうことであれば、初めから現状の学区にとられず、生徒の通いやすさ（特に距離）を考慮し、就学区域を設定し直しても良いのではと考えます。生徒は距離の近い学校に通いたいと思うのではないのでしょうか。学校規模に差ができるとしても、大きいものでなければ許容しても良いと考えます。</p> <p>⑦今井1丁目付近から現第三小学校までの通学に関し懸念が残る。公共交通機関のバスも近年では本数も減っている為スクールバス等を検討する必要あり、低学年児童の通学に負担増。</p>	<p>②小学校や中学校は地域のコミュニティにとってシンボリックな存在であり、防災拠点になっていたり、地域の祭りの会場になっていたり、廃品回収の拠点になっていることも多い。こうしたシンボリックな存在が喪失することは地域の活性化の障害になりやすい。全国の自治体ではこうした学校統合に伴う廃校校舎を地域のコミュニティにとって新たなシンボルになるように再生する試みが行われている。</p> <p>学校再編は地域のコミュニティにとっても重大な関心事になってくる。</p>	<p>③無駄な施設がない</p> <p>③成長の速い子が、学年以上の書物を読んだり、レベルの高い絵画や合唱を観聴きできる。</p> <p>③中学への進学時、環境が変わらないので不安がない</p> <p>③登下校で顔見知りが増え、関係が持続する、低学年が守られる</p> <p>③兄弟関係など先生が家庭環境を把握しやすい</p> <p>⑤施設一体型小中一貫校の提案にて、第三小学校、新町小学校の建て替えに併せての施策実施で、維持管理費用の適正化が可能になることを期待します。</p> <p>⑦施設一体型の場合、体験したことが無いので想像でしかないが、学校一体のイベントなどが実施できると思われる。また、小学校教育から中学教育に変更されるにあたり教職員間での申し送り（児童や家庭の情報など）がスムーズになると思われる。</p>	<p>③中学生がいることで萎縮する小学生もいる</p> <p>③進学による気分転換ができない、教師や仲間内での評価が固定され生きづらいう子が変わらない</p> <p>⑦小学校低学年と中学校3年生との体格差がある為、同一施設内での生活の際に大きな格差が生まれる。保護者側としてもこれまで経験がない為不安要素が大きいのではないかと。</p>	<p>①吹上小・中が地区割で中央部となっているが、吹上・塩船地区は、第3小・中とのつながりも強く、過去の経緯より東部2地区として、再編案を検討した方がベターと考える。</p> <p>再編後の施設の利用方法についても、要検討事項として熟考してほしいと思う。</p>
	新町小学校	<p>①行事の時、ある程度の児童数がないと盛り上がらないので良いと思います。</p> <p>④集団生活から得られるものを考えると、統合し、望ましい学校規模を維持することは必要と考えます。</p> <p>⑤適正数が必ずしも案の通りで合っているかは別として、全体としては良いと思う。</p> <p>⑥小学校1学級25名位、中学校1学級30名弱になるが、子どもにとっては学習面で目が行き届き良いと思う。先生の負担も少しは軽くなるかもしれない。</p>	<p>①一施設にすると人数に合う校庭の広さが必要。</p> <p>③児童・生徒数の規模が多すぎる。これでは、現行の学校規模では狭すぎ、学校の敷地・体育館・校舎すべて現行より大きくする必要がある。</p> <p>⑥小中一貫であると、学級数や規模が大きい印象がある。小学1年生と中学生では、体格差があり、心配な部分もある。</p>	<p>②東部2地区再編案AもBも変わらない</p>	<p>①新町中との隣接なので良いと思う。</p>	<p>①藤橋小の児童は特に1年生は通学が大変。</p> <p>③今井小・藤橋小いずれも、児童の通学負担が大きい。バス通学の支援を青梅市が行う必要があると考える。</p> <p>④今井地区の児童の通勤が気になります。建て替えるのであれば、今の第3小学校の場所以外で、中間地点くらいで候補地はないでしょうか？徒歩40分、徒歩+バスも少々心配ではあります。</p> <p>④学童について、小学校の近くにある学童(第3、大門、新町)を利用することになるとは思いますが、今井地区の児童の保護者様のお迎えの負担も気になります。(今井と藤橋の学童はそのままその場所に残すのか、他へ移設するのか、無くすか)</p> <p>⑤今井小学区1丁目の三小への通学手段(バスが公共なのか市のスクールバスなのか)</p>	<p>②東部2地区再編案AもBも変わらない</p>	<p>①同じ施設の方がしっかりした教育ができる。</p> <p>⑤小1から中3まで同じ施設で、上下のつながりの良さができるかも</p> <p>⑥建物の維持・管理費は多少軽減できると思う。異年齢との交流があれば良い面もあるかもしれない。</p>	<p>①人数が多くなった場合教室の数が足りなくなる</p> <p>③小中一貫にするメリットが教育委員会の説明では伺えない。学力向上など子どもや保護者にとってのメリットがない限り、不要と考える。また、環境が変わらないことで、いじめ・不登校の長期化、中学生の問題行動が小学生まで影響され、問題行動の低年齢化を招く恐れが考えられる。</p> <p>⑤教室数、同一授業で教室の奪い合い、体育施設の不足</p> <p>⑥小中学校、各4学年4クラスを想定すると、校庭や体育館の使用が混乱するので、広くする必要はあるかと思う。小学校低学年のことを考えると、成長・発達の差が激しい。</p>	

		学校の規模			学校の配置・通学			小中一貫教育		
		メリット	デメリット	その他	メリット	デメリット	その他	メリット	デメリット	その他
						⑥三小・三中学区が広い。今井の徒歩40分3kmは大変だろうと思う。路線バスもその頃に運行しているだろうか。今でも本数は少ない。学校の位置を学区の中心に設置する方法はどうか。			⑥中学校の間に道路があるので、難しいかもしれないが、屋内通路(空中の通路)を設置し、行き来できたら良いと思う。	
今井小学校	⑥児童、生徒数、学級数については活気ある活動が期待される。 ⑦低学年の通学が大変(引率等)	②小中施設一体型のメリットは、体育館や校庭、特別室などが1か所済むというところだが、東部2地区再編案Bの三小中・新町小中規模だとトータルの学級数が36学級となり、体育館も特別室も1つでは足りなくなるのは目に見えている。また、小中施設一体型は小学校と中学校の教員が同じなので連携がとりやすいともいわれているが、800人規模の児童、生徒をすべて覚えて連携が取れるとは考えにくい。小中施設一体型のメリットはあくまで規模の小さい学校で発揮できる話で、ここまで大きい規模の学校には適していない。 ⑥低学年については細やかな指導が行き届くのが心配される。 ⑦低学年の通学が大変(引率等)		⑥従来の中学校区中心となるので、地域には馴染みやすい。	②まずは豊岡街道の整備をしてほしい。三中生の自転車通学のマナー悪すぎ。朝はスクールゾーンで車両進入禁止なのに無視して通る車が多すぎ。そこを多くの小学生が徒歩で通学するとか、ぞっとする。今井1丁目からはバス通学となっているが、朝のバスの本数が増えるということで、事故が起きてでも不思議ではない。また学区が広がるということは、学校行事や毎日の送迎を車を利用する保護者も多くなるということなので、施設には駐車場の確保も必要。現在も学校では「車の乗り入れはご遠慮ください」としているが、学童はほとんどが車でお迎え。学校の駐車場が使えないと隣の市民センターや店舗に迷惑がかかることが懸念される。やはり学校は子どもにとっても保護者にとっても徒歩圏内が一番ベストといえる。 ⑥従来の中学校区中心となり、統合される小学校区は広範囲になり、通学の負担が増す。 ⑦学年での自転車通学等で問題が発生		②施設一体型は体育館や特別室が全校共同で使える。小学校と中学校との連携が取りやすい。ただしこれは小規模学校での話で、三小中、新町小中にはあてはまりにくい。 ⑥施設一体型では一貫校として理念や管理の共通性を示しやすい。 ⑦施設一体型ではスポーツの場が広がる	②小中学校両方の教職免許を持った教職員の確保。子供の成長過程として、小学高学年で下級生のお世話をする、お手本になるという経験ができない(しなくなる)。9年間同一学校はメリハリがつきにくい。小学生が放課後に校庭や特別教室、体育館を使いたいときがあっても、中学生の部活のために使用できない。規模が大きすぎて学校行事(運動会、音楽会、芸術鑑賞会など)が成り立たない。 ⑥小学生低学年と中学生では教室の設えや年齢に応じた設備の使用法の対応が難しい。また、行動規範に関して中学生に行動の乱れがあった場面では小学生に悪影響を及ぼすことが懸念される。		
藤橋小学校	①小中一貫については、連続性があるので学びやすいと感じます。また中学生になった時の環境や人間関係の急な変化に伴う不安や学力低下は解消されると思います。 ②小学校区は東部2地区再編案Bが望ましい、藤橋小学校は新町小学校へ編入することが望ましい。 ③少子高齢化を見通した場合の学級数等は妥当な数だと思われる。 ④小・中の多くの友人、先生に出会えて人間関係が豊かになる。	①規模が大きくなると連続性で学べるメリットが薄れる可能性もあるのではないのでしょうか。 ④少人数指導を行う教室の確保ができる。		②将来的にこの案が最適 ③藤橋小学区より考慮しても概ね適正配置と思われ、通学負担も他学区と比べ妥当かと思われる ④歩く運動習慣が身につく	①距離が遠くなると、小学生の負担はあると思います。また、大人とは違い、小学生にとって学区を超える距離は、慣れている地域、育った地域から離れる感覚があると思います。 ③幹線道路の通学も発生するのが懸念である。 ④距離が遠くなると交通事故が起きないか心配、天候で通学が難しい。夏に炎天下の中、低学年は歩くのがきつい。		①小中一貫教育については、連続した学びを得られるので、メリットは大きいと考えます。中学校になった際の環境や友人の変化に戸惑うことも少なくなると思うので良いと思います。施設分離型については、メリットがあまりないように感じます。同じ建物の中で過ごし共有することが一番のメリットと考えます。 ④小学から中学へのスムーズな移行	④学習、生活の節目がなくなり、進学の気持ちの切り替えがしにくい、人間関係。		
第三中学校	②学校の規模は適正であると考えます。 ④再編後、適正規模を確保できる	①小学校から中学校へ上がる際、いじめ問題等の事が心配です。 ③3小が今井小を受け入れられる教室があるのかどうか。新町小・藤橋小も同じことがいえる。先生を増員しないと無理な気がします。	⑥将来の人口減少社会の予測に基づいて対策は大切と考えます。	②新しい学校の位置は3小・中と新町小・中は共に隣接していて、再編しやすく小学生の通学で負担が増す地域もありますが、やむを得ないものと考えます。	①小学校から中学校へ上がる際、いじめ問題等の事が心配です。 ③現3小・新町小なら2校共に建て替えが必要です。通学も、今井1・3丁目から低学年の生徒が歩くのはリスクが高い。公共バスも一般の方がいるので大混雑してしまう。親が送迎して大渋滞多発して近隣からクレームが入りそう。スクールバス等はコスト大になるので困難だと思う。	⑥児童・生徒の通学の負担や安全面に配慮して検討していただければと思います。	④教育の連続性が確保される、発達に応じた柔軟な対応ができる。児童・生徒の環境変化によるストレスが軽減される、施設の効率的活用ができる。	①小学校から中学校へ上がる際、いじめ問題等の事が心配です。 ③一貫校にするには学校を新しく作らないと不可能だと思う。それだけの資金が青梅市にあるとは思いません。(小中で使用する教材・設備が違うため) ④小・中発達差、年齢差による問題が生じる可能性がある。教	⑥東部2地区の一体型と隣接型のどちらかの案でも、施設一体感が保たれる事が大切だと思います。	

	学校の規模			学校の配置・通学			小中一貫教育		
	メリット	デメリット	その他	メリット	デメリット	その他	メリット	デメリット	その他
					④今井1丁目から第三小学校の通学は児童・生徒に対して負担が多い			育費の専門性確保が難しくなる。	
新町中学校	<p>④現状に近く、受け入れやすいと思う</p> <p>⑤一学級当たりの人数は適切かと思いましたが。やはり今井小、藤橋小学区の生徒数の適正化は進めるべきと考えます。</p> <p>⑥適正規模の維持ができるのは、東部2地区再編案Aに同じ。ただ施設が一体型である分、ハードウェアの共通化が図られる。しかし、説明会で質問が出たようにコストメリットは今の段階では不明のようである。</p> <p>⑦規模適正化の実現までの期間が短くなるので早く適正化でき、子供たちや保護者の負担が少ない。</p>	<p>⑤適正化の時期で生徒の心境が不安定になることも考えられるため、該当エリアで生徒が選べる時期という期間を設けてはどうか？と思いました。</p> <p>⑦移行期間の対象となる学区域が広いので、地域としてのサポートも多く必要となると考えられる。</p>		<p>①新町中との隣接なので良いと思う。</p> <p>⑦移行期間が短く、同時期に各学校区が一斉に切り替えられるのでわかりやすい。地域としてのサポートもしやすい。</p>	<p>①藤橋小の児童は特に1年生は通学が大変。</p> <p>③通学にバスを使う場合、将来バス路線が持続経営されているか心配です。スクールバスなども視野に考える必要があるかと思えます。</p> <p>④合併は良いと思うが遠すぎる。小学生が毎日通学するのは厳しい。親の送迎が必要になり負担になると思う。</p> <p>⑤両方の案に言えることですが、今井小学区で特に人間市よりの生徒や、武蔵野台病院の辺りに住む生徒が三小に通う場合に、公共交通との関係や、道幅が狭いことによる事故が考えられます。</p> <p>バス停の見直し、公共交通の路線の変更、本数の見直しなどを検討していただく必要があると思えます。</p> <p>⑥既存に比べ、通学距離が増えて児童の負担が増す。中学校区に変化はないようなので、新たなデメリットはなさそう。</p> <p>⑦建築期間中どこで授業をするのか？他校を間借りする、もしくはプレハブ校舎を利用する等の検討や工夫が必要。</p>		<p>①同じ施設の方がしっかりした教育ができる。</p> <p>③体育館、備品については、成長と共に教育に取り入れて使っていけば、施設などの維持管理費を抑えることが出来るように思います。</p> <p>④施設を一緒に使用できるため、コストダウンにつながり良いと思う。</p> <p>⑤学校が一貫した教育ができるのは素晴らしいと思います。</p> <p>⑥施設を一体化する事で、より充実した小中一貫教育ができる</p> <p>⑦小中学校間の連携が取りやすくなるのでカリキュラム等への良い影響が期待できる。</p> <p>⑦施設一体型の方が建築費用を抑えられる。</p> <p>⑦中学校進学への不安感が軽減される。</p>	<p>①人数が多くなった場合、教室の数が足りなくなる</p> <p>③小中学生の時期、9年間は長く、同一環境での生活にはストレスを感じる子供も多いのではないか。</p> <p>④体格に違いがありすぎ、小学校の親としては心配なところがある。例えば、部会中に走っていてぶつかるなども心配です。</p> <p>⑤学校が落ち着かなくなってしまった時に、中学校の落ち着きのなさが、小学校に影響するのは課題と思います。</p> <p>⑤学校の先生の教員資格の問題はないんですか？</p> <p>⑥9年間変わらぬ組織が人間関係により登校拒否などの問題を助長しないか心配である。</p> <p>⑦小中学校間での授業時間の違いによるチャイムのズレが学習への集中に影響しないかの懸念がある。校庭・体育館・プール等の共有施設の運営が難しい。</p>	